



三条北ロータリークラブ週報



No. 9

RI: マーク・ダニエル・マローニー会長「ロータリーは世界をつなぐ」

第2560地区: 大谷光夫ガバナー「楽しいロータリーでつながろう」

三条北ロータリークラブ: 外山裕一会長「ロータリークラブでより多くの仲間作りを!」

会長: 外山裕一 幹事: 羽賀一真 SAA: 梨本文也

●例会日: 火曜日 12:30~13:30 ●例会場: 三条ロイヤルホテル TEL 0256-34-8111

◆本日の行事:

「基本的教育と識字率向上月間」

◆本日の出席: 60名中28名

◆先々週の出席率: 60名中45名 75.00%
(前年同期 79.36%)◆8月の出席状況: 会員数 60名・例会数 3回
平均出席率 80.00%
前年同月 79.36%

◆本日のゲスト:

NPO法人ハートフルコミュニケーション
理事 土田 陽子 様

◆先週のメイクアップ(敬称略)

9/4 三条 RC 外山晴一

9/5 地区会計監査 石川勝行

* 本日の配布書類等

- ・週報 No.1561
- ・ガバナー月信 9月号(閲覧)

会長挨拶: 外山裕一 会長



皆さん、こんにちは。

またちょっと暑くなりました。

体調を崩さないように、気をつけてください。

本日は「基本的教育と識字率向上月間」ということで、

NPO法人ハートフルコミュニケーション理事
土田陽子様、よろしくお願いいたします。

先程からBOXが皆さんの所に回っているかと思いますが、「掛布BOX」よろしくお願い致します。並びにニコニコBOXもよろしくお願い致します。

それともう一つ、本日、会長ノミニーの指名委員会がありますので、出席の皆様宜しくお願いします。以上です。



幹事報告: 羽賀一真 幹事



・大谷ガバナーより、「2019年8月九州北部豪雨」義捐金募金のお願いが来ています。

・地区米山奨学委員長より、「第1回米山記念奨学委員長セミナー開催のご案内」

日時: 10月19日(土) 会場: ホテルイタリア軒

・三条ロータリーアクトクラブより、「9月第一例会のご案内」

日時: 9月12日(木) 19:30~21:00頃

会場: 三条・燕地域リサーチコア 4F 異業種交流室

・8月27日卓話講師の介護福祉士 阿部和子様から、お礼状が届いています。



ロータリー財団 BOX

10日現在累計 37,000円

石川 一昭 君 とうとう古希になりました。うれしくはありません!!ジジイです!!
今井 克義 君 BOXに協力
本田 芳久 君 財団に協力を!



米山奨学 BOX

10日現在累計 140,000円

米山 忠俊 君 米山奨学会に協力
高橋 彰雄 君 協力致します。
森 宏 君 協力致します。
吉田 文彦 君 石黒さんに協力
石黒 隆夫 君 米山の寄附には半期に一度各クラブで決まった一人分の金額(当クラブ 2,000 円)を会員数寄付する普通寄付金と、ボックスなど任意でいただく特別寄付の2つがあります。



スマイル BOX

10日現在累計 245,000円

渋谷 義徳 君 ハートフルコミュニケーション理事土田様に感謝して。
よろしくお願ひします。
吉田 文彦 君 ハートフルコミュニケーションの土田様、ご指導よろしくお願ひします。
石川 一昭 君 本日とうとう古希になりました。ゴルフは前からシルバーティーから打ちます!!
シルバーの皆様宜しく。
森 宏 君 また熱中症の方が来ています。皆様、気をつけましょう。
樋口 勤 君 BOXに協力
佐藤 義英 君 //
落合 益夫 君 //
中原 尚彦 君 //
梨本 文也 君 //
羽賀 一真 君 //
外山 裕一 君 //
石川 友意 君 土田様の卓話に感謝して!!



社会奉仕事業 特別BOX

10日現在累計 73,000円

本日の行事：「基本的教育と識字率向上月間」

講師紹介 渋谷 義徳 国際奉仕委員長

本日講師の土田陽子様のプロフィールをご紹介致します。

- ・はっぴーずコミュ 代表
- ・特定非営利活動法人 ハートフルコミュニケーション 理事 認定ハートフルコーチ
- ・特定非営利活動法人 WWA(ワーキングウィメンズアソシエーション)理事
- ・米国 NLP 協会認定 NLP マスタープラクティショナー
- ・魔法の質問 認定講師

など様々な分野で講師を務めておられます。ご自身は東京都出身で結婚を機に新潟へ移住されまして、二男一女のお母さんでいらっしゃいます。

その経験の中で環境の変化や子育てのもどかしさを実感され、自ら学ばれたコーチング経験を活かし、子供達の居場所である「はっぴーずコミュ」を2007年に創設されました。一人一人の持っている力や能力が、より発揮できるよう個人や企業・団体・市などのサポートを行っておられます。

講演や講座をご紹介致しますと、三条市内小学校「入学時保護者向け家庭教育講座」
三条市教育委員会子育て出前講座講師「親子コミュニケーション」など、他方面では、



燕三条 FM ラジオは一と「ママと一緒」パーソナリティを務めておられました。

「基本的教育と識字率向上月間」ということで、元々識字とは江戸時代の寺子屋から学んでいるのだらうと考えました。子供の手習い、幼児に関わることを学んではどうかと思っておりましたら、たまたま私の社員の奥さんが、子育てサークルで土田様を存じ上げているということで、是非卓話にお越しいただきたいとお願いしたところ、快く引き受けて下さいました。では、よろしくお願いします。

『子どもに教えたい3つの力』

NPO 法人ハートフルコミュニケーション

理事 土田 陽子 様



皆様、こんにちは。

NPO 法人ハートフルコミュニケーションの土田陽子と申します。

今日はこのような機会をいただき、ロータリークラブの皆様の前で、お話しすることを大変ありがたく思っております。実はロータリークラブは、私自身、勝手に深いご縁を感じております。私の祖父は、国際ロータリークラブの理事、財務長をしておりました。そして祖父叔父は親子2代でガバナーを務めたり、昔からロータリーの取り組みをよく聞かされておりました。非常に親しみのあるロータリークラブでお話させていただく、光栄な機会をどうもありがとうございます。今回の卓話のことも祖父に伝えましたら、非常に喜んでおりました。今月の「基本的教育と識字率の向上月間」というテーマに沿って、少しでもお役に立てる話ができるよう、精一杯努めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、私の自己紹介をいたします。私は燕市三条燕インターのすくそばで、ハーヴェストという農園を夫と営んでおります。稲作のほか、花苗の生産、主にハーブの苗を育てております。また養蜂も行ない、はちみつもとれます。来月の KOUBA の祭典にも参加しておりますので、お近くまでお越しの際には、是非お立ち寄りいただけると嬉しいです。

また、私は、自分の3人の子育てを通じて、本日ご紹介する『ハートフルコミュニケーション』というプログラムに出会いました。そして子育てに取り入れ、15年以上実践してきました。このハートフルコミュニケーションの考え方はとてもシンプルで普遍的で、とても大切なことであると感銘を受け、一人でも多くの「人を育てる方」に届けたい、と13年前からは伝える立場として、講演や講座を行っています。

『ハートフルコミュニケーション』は、コーチングという人材育成の手法を、子育てに取り入れたプログラムです。対象は、親はもちろん、先生、保育者、子どもに関わる大人です。コーチング、もしくはコーチという言葉をお聞きになったことはあ

りますか？ どこかでお聞

きになったことがある方が多いと思います。中には、会社を導入されたり、学ばれたことがある方もいらっしゃると思います。コーチングは、スポーツの選手や部下の育成に用いられる方法で、選手や部下の目指す目標達成のためのサポートをする方法です。コーチは、技術面のサポートはもちろん、メンタル・心のサポートもする人です。相手の状態を観察し、どのようにしたら目標達成となるか一緒に考え、やる気を出させ、モチベーションの維持など、様々なサポートをしています。最近有名になったコーチは、テニスの大阪なおみ選手のサーシャバインコーチですね。(今回4回戦敗退) 残念ながら変わりましたが、昨年の全米オープン優勝の際にはコーチがメンタルサポートで大変注目されました。

ハートフルコミュニケーションは『子どもの幸せな自立』を目指し、親が子どものコーチとなろう、と伝えています。この本の中に詳しく書かれておりますが、コーチングを子育てに取り入れ、子どもに関わるプログラムです。親は子どもを幸せにするため、そして、自立した人にするために、人生のコーチになります。日常生活をサポートするだけでなく、子どもの心もコーチングします。「自分で考え、行動する子ども」を目指しています。そのための具体的なサポートとして3つのことを、子どもに教えようと伝えます。今日は、この「子どもに教えたい3つの力」について、お話しさせていただきます。実はこの本は2003年に刊行されて以来、シリーズ累計90万部を超えて皆様に読まれており、子育て本としては異例のヒットだそうです。是非機会がございましたら、ご一読ください。

さて、今、世の中は大きな時代の転換期を迎えていることを感じています。私たちを取り巻く社会はモノが溢れ、インターネットやAIが台頭しています。ますます少子高齢化が進み、グローバルな視点が欠かせない世の中です。10年後には今ある半分の職業がロボットに変わるかもしれない、という衝撃的な論文もありました。私もこの時代の転換期にいることを日々実感しており、スマートフォンやSNSなどついていくのが必死です。私た

ち自身もこれまでの常識にとらわれず、柔軟に変化に対応していかなければいけない、と感じています。ですから、これからを生きる子ども達は、私たちとは全く違う社会で生きていくんだろうな、と思っており、私たちの価値観を押し付けたりできない、これまでとは違う感覚で生きていく必要があることを感じています。

そのような世の中の変化に対応するために、教育も大きく変化していきます。来年度から、日本の学校教育が大きく2つの点で変わります。1つ目はご存知の通り、大学入試制度が変わります。センター試験がなくなり、別の方法での試験になりますね。そして2つ目、いよいよ来年4月から小学校の学習指導要領が変わります。これは大きな変化だそうです。外国語が教科となり、プログラミング教育が始まったりします。私は専門ではないので、その話はいたしません、文科省のホームページなどに詳しく掲載されています。

これまでのように、教育現場で知識や技能だけを教えるのではなく、子ども自身の考える力、思考力、判断力、表現力や、人間性、社会の中でその知識を活かす力を伸ばそう、ということだそうです。指導方法も変化しています。例えば、アクティブラーニングという「課題を見つけ」「考えさせ」「人に伝える」授業スタイルが導入されています。まさに「自分で考え、行動する力」を伸ばす必要がある、人とうまくやっていく力を伸ばす必要がある、ということを文科省が明確に打ち出しました。

よく、企業などでお話しさせていただくと、人事の担当者や社長様から、今の新入社員は考える力がない、指示通りにはうまくやるんだけど、すぐ答えを聞いてくる。自分で課題を見つけたり、考えてやってみることができない、とおっしゃられることがあります。私も自分の子育てをしているときに、「なぜ自分で考えないの？やってみないの？」と感じる場面が多々ありました。今、子ども達は3人とも大学生なのですが、我が子を含めた大学生と付き合ってみても、そう感じる事がよくあります。彼らに聞いてみたことがあります。「なぜ、すぐ答えを聞くの？」と。そうしたら、「考える機会を奪われた」と言いました。ショックでしたね。私たちのせいかと。確かに自分でやってみる機会がない。うまくできないと、失敗すれば怒られる、やり方が違うと怒られる、始めからやり方があるなら聞いた方がいい、というのです。学校や家庭での関わり方の結果が今の子供たちなのだな～と思った時に、大人の私たちにもまだまだできることがあるな～と思いました。

そのような社会が大きく変わる、教育も大きく変わるこの時代に、子どもたちに何を教えていけばいいのか。子ども達が幸せに、そして、「自分で考え行動するために」何をすればいいのか、そのヒ

ントになるであろうと思っていることが、このハートフルコミュニケーションです。親が子どものコーチとなって、「子どもに3つの力を教えよう」と伝えています。では、その3つの力は何か、1つずつお話しします。(10分)

まず、1つ目の教えた力、「愛すること」です。愛することを教える、ということは、子どもの自己肯定感を伸ばすことです。自己肯定感というのは、自分はありのままの自分でいい、いいところも悪いところもある自分をそのまま受け入れる、という感覚です。自己肯定感がある子どもは、自分を大切にします。自信があります。失敗したり、辛いことが起こっても、また頑張ろう、という気持ちになります。たくましく、また、自分を大切にすると同じように、他人を大切にします。だから人からも愛されます。世の中から愛され、幸せに生きていくことができるのです。

世界の比較調査では、日本の高校生の自己肯定感が低いことがよく話題になります。子どもの自己肯定感を育てるためには、まず身近にいる大人が、親が子どもをたっぷり愛することです。甘やかす、ということではなく、呼ばれたら応えること、信頼して、見守ることです。話を聞くことです。その子をそのまま、ありのままを受け入れることです。身近な大人は時にそれが難しい。期待を押し付けたり、他の子と比べたり、できないことばかりが目についてチクチクとお小言をいったり、まずは、そのままの子どもを受け止め、受け入れ、子どもが「愛すること」を身につけられるよう、接していくことが大切です。まずは何をにおいても、教えずにはいけないことは「愛すること」です。

2つ目の教えた力、「責任」です。責任というと、不祥事を起こした会社の社長さん達がずらっと座っている記者会見の様子が思い浮かびますが、本来の責任という意味は、英語で書くと「Responsibility」です。Response 反応、と ability 能力、がくつついた言葉。つまり対応する力、起こった出来事に反応する力です。問題が起きたとき、自分で考え、自分で行動すること。その結果を受け止め、また次に、前に進んでいく力。それを繰り返し、成長していくことです。責任の本来の意味です。そうすることで、考える力、行動力、達成感、また、問題を発見し、解決する力が身につきます。社会で生きていくには、とても大切な力です。まさに新学習指導要領では、きっとこの部分の力を伸ばしていこう、ということだと理解しています。責任を学ぶことで、人生は自分次第である、自分の力でいい方向に変えていくことができる、ということを学びます。そして、他人のせいになしたり、被害者体質になることはありません。

子どもに教えるためには、子どものことは子どもに任せることが大切です。どうしても身近な大人は、指示を出します。自分で考えることを奪うことが多いです。なぜなら子どもはうまくできないから。先回りして、こうするといいよ、などと正解を教えます。また、せっかく自分で考えやったことを、非難したり、失敗すると「それ見たことか!」と突き放したり。待つことができなかったり、うまくいかないことに耐えられなかったりします。今、親や大人達は子どもから考える機会や、失敗するチャンスを奪っているような気がします。企業での人材育成でもそうだと思いますが、自分で考えて、やらせてみて失敗して身につけていく、ということは昔から大切なことですね。「責任」を教えていきましょう。

3つ目の教えたい力は「人の役に立つ喜び」です。

人は一人では生きていけません。自分一人ではできないことは、誰かの力を借りること。そして、人と協力して生きることは不可欠です。また、人には生まれながら、誰かの役に立ちたい、という思いがあります。誰かの役に立てることは喜びです。さにロータリークラブの理念である「社会奉仕」とは、「人の役に立つ喜び」だと理解しています。この「人の役に立つ喜び」を子どもの中に育てることで、社会の中で幸せに生きていくことができると考えます。自然と人に思いやりを持ち、人と共に生きていくことを学びます。

そして、誰かの役に立ちたい、というこの思いは、自分の中から湧いて出るやる気のタネです。ご褒美があるから、怒られるから、という外側からの働きかけで起こるやる気とは違い、自分の中から発生するやる気なのです。この内なるやる気を大きく育て、社会の中で自分が役立つ人間になる、という感覚を育てることが「人の役に立つ喜び」を教える、ということです。

そのために、私たちは、親や大人の役に立つてもらおう、と伝えます。つまりお手伝いをススメ

ています。小さな頃からでもできる手伝いをさせ、役に立ってくれたとき、感謝や喜びの気持ちを伝えれば、この力を育てることができます。

感謝や喜びを伝える時は、是非「I(アイ)メッセージ」で伝えてください。「私」が主語の言葉です。

「ありがとう」「嬉しい」「助かった」という私たち自身の気持ちを伝える言葉です。「いい子ね〜」「えらいぞ〜」という褒める言葉は「あなた」が主語の言葉です。そのような言葉は時として、評価に繋がることがあります。私たちが伝えたいのは、評価ではなく、役に立ってくれたことへの感謝や喜びです。ぜひ「I メッセージ」で役に立ってくれたことを伝えてください。そうすることで、人の役に立つ喜びが育っていきます。

以上の3つの力「愛すること」「責任」「人の役に立つ喜び」を子どもに教えることで、自分で考え行動する力が育っていきます。世の中の変化に柔軟に対応し、自立し、たくましく生きる力を身につけた子ども達が育っていくのではないかと考えています。

ハートフルコミュニケーションをお伝えした方からは、とても大切なことを、大変シンプルでわかりやすいですね、と言われます。子育てをしている時、人育てをするときの、何か軸のようなものができた、ということをおっしゃっていただくことが多いです。私もそう思い、取り入れ、実践してきました。

これからの地域、日本、そして世界を、よりよく発展させ、素晴らしい社会を作るのは、今の子ども達です。是非、私たち大人が子どもの自分で考えて行動する力を伸ばして、素晴らしい未来を期待したいと思います。そのためにぜひ、お子さんや部下の方に関わる時に、今日の話が参考になれば嬉しいです。

最後までご静聴、どうもありがとうございました。本当に本日はありがとうございました。

2019-20ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2560
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



ガバナー月信 9月号より

ガバナーメッセージ



ガバナー 大谷 光夫

8月に入ってから連日の猛暑で、特に14日高田は40.3度と今迄の最高気温を記録、しかし翌日には胎内市で40.7度と一日であっさりと更新されました。

近年の気象状況は極端になることが多くなり、これまで“異常”と言われていたことが“普通”になってしまいました。この先どうなっていくことか心配せずにはいられません。

そんな中8月の公式訪問は合同も併せて14クラブです。7月の7クラブを含めてもまだ半分にもなりません。なかなか大変なことであらためて感じている次第です。

さて、9月は基本的教育と識字率向上月間です。ポリオもそうですが私たちには遠いことのように思われる方もいると思います。確かに日本は世界的にみても識字率は群を抜いて高い国です。しかし、世界にはまだまだ識字率が低く文字を読めない人が沢山いる国が多く存在しています。

私たちロータリアンはそういう人々に思いをはせ努力を惜しまないよう活動しなくてはならないと思います。

まだまだ残暑厳しい中ロータリアンの皆様にはなにとぞ御自愛下さい。

RIマローニー会長が福島を訪問し復興願い植樹 大谷ガバナーも歓迎晩餐会に出席

